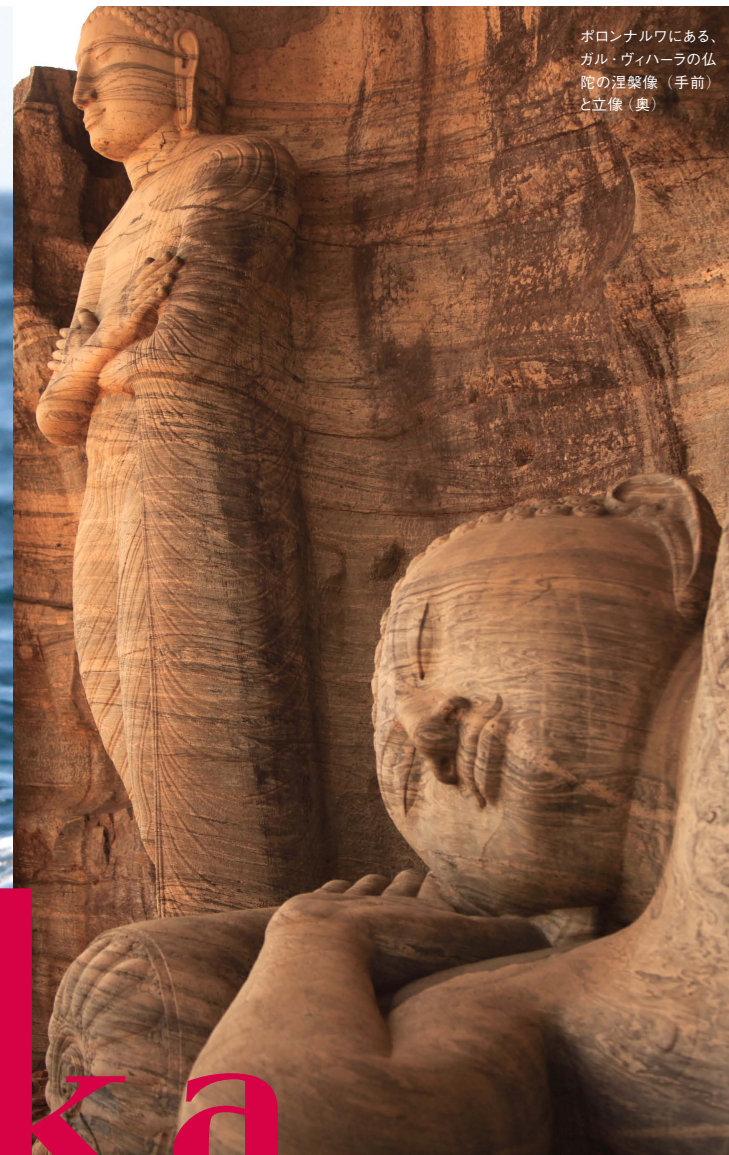
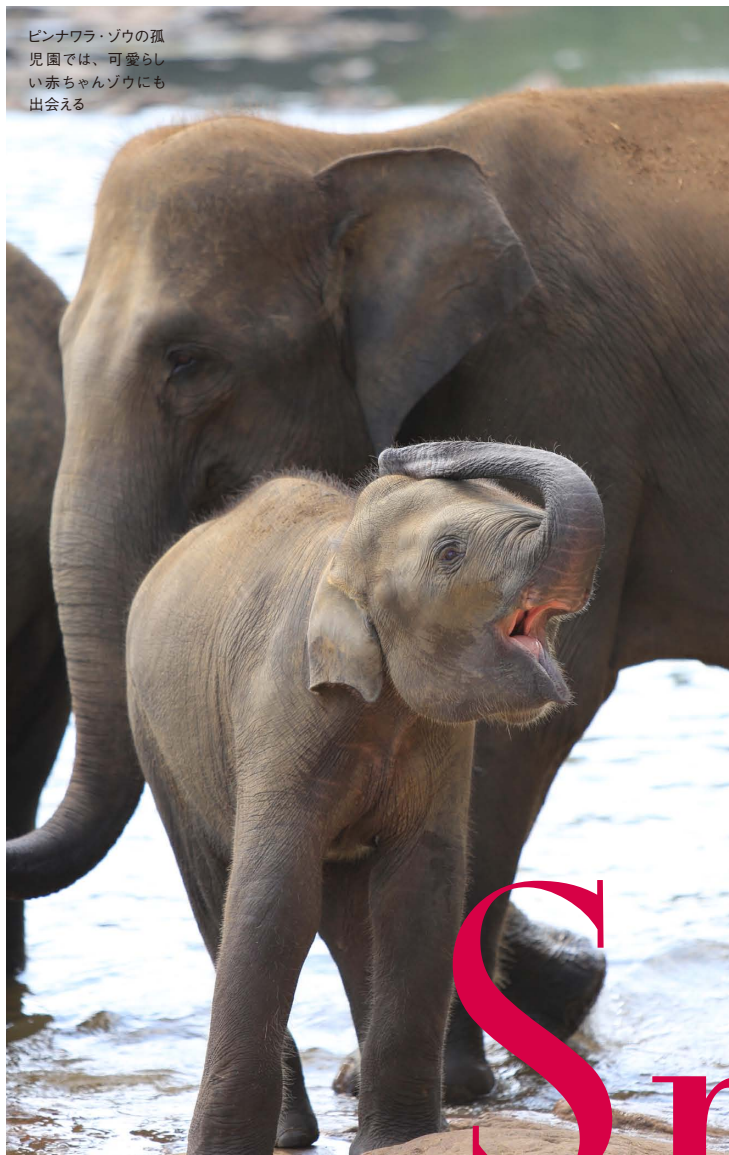


ピンナワラ・ゾウの孤
児園では、可愛ら
しい赤ちゃんゾウにも
出会える

トリンコマリーの沖合
には、数百頭にも及
ぶマッコウクジラが集
まってくるという

ポロンナルワにある、
ガル・ヴィハーラの仏
陀の涅槃像（手前）
と立像（奥）



Sri Lanka

スリランカ ホエールウォッチング 北東部海岸トリンコマリーと、世界文化遺産を巡る旅

世界文化遺産の多く残る仏教国スリランカ。1983年から26年間続いていた内戦が2009年に終結し、観光客に対しての北部地域への門戸が開かれ始めた。

そんな未開の海へ、世界文化遺産を巡りながらのリサーチダイビングに赴いた。

そこで見たものは、マッコウクジラとシロナガスクジラが同じ海域で生息するという衝撃的なシーンだった！ まだ見ぬ海には、どんなアンダーウォーターワールドが広がっているのだろうか。

Photo & Text - Takaji Ochi
Special Thanks - SI World
Design - PanariDesign

人々が集まってきたのは、古都キャンディの青空市場の入り口



ピンナワラ・ゾウの孤児園、川で水浴びをするゾウたち



- 01/リゾートには、あちこちにこうした花のデコレーションがある
- 02/ アヌダープラで出会ったジブシーの女の子たち
- 03/ ダンプラの石窟寺院の下にある、ゴールデンテンプルと名付けられた異様な建物
- 04/ 幹線バスだと、コロンボから8時間かかる

目的地トリンコモリーは、 コロンボから8時間!?

スリランカの情報源は、「地球の歩き方」のみだった。今回に限っては、当然のように空港で手に入れたガイドブックを握りしめて機内へと搭乗した。自分にとって、初めて訪れたスリランカ。これだけあちこちの国へ訪れていても、やはり初めて訪れる時には、それなりに緊張もするし、まだ見ぬ異文化とそこに住む人々、そして自然に対して期待もする。

今回の目的地となる、トリンコモリーは、コロンボから車で約8時間と聞いていた。地図を見る限りでは、距離にして、コロンボから約150km。平均時速50kmで走ったとして、3時間だ。ということは、相当に道が悪いのか……。

「内戦も終わり、今は北西部へ向かう幹線道路を奇麗に舗装するための工事があちこちで行なわれているんです」。トリンコモリーまでの車の運転を担当してくれたサムが説明してくれた。



04

今回の旅では、目的地トリンコモリーまでの間に点在する世界文化遺産を取材して回ることも、目的の一つだった。なので、尚更「地球の歩き方」に

お世話になることに。助かったのは、ドライバーのサムが、国公認のガイドの資格を持っているために、世界遺産の知識が豊富だったこと。おまけに、最近カメラを購入し、撮影に凝っているため、足早に世界遺産を回らなくてはいけなかった僕のために、どこが写真映えるかを、意外と的確にアドバイスしてくれたことだ。

Sri Lanka スリランカ ホエールウオッチング
北東部海岸トリンコモリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

関連情報HPへ

シーギアロックの天
空の王宮への入り口
にある、獅子の足



こんな、岩の頂上に
建設された王宮があ
るとは。スリランカの
文化遺産の中でも一
際異彩を放つ、シー
ギアロック



World heritage

スリランカ

世界文化遺産群

……ということで、ダイビング専門サイトでもあるので、ここでは足早にスリランカの世界文化遺産を紹介していきたいと思う。まず、スリランカには、7つ仏教遺跡等が世界文化遺産として登録されている。

「地球の歩き方」にも、「世界遺産7つを巡る旅10日間」という特集がある。その中で、今回の慌ただしい取材で、訪れることができたのは、トリンコマリまでの道中にある、アヌダーラプラ、ダンブッラ、シーギア、ポロンナルワ、そしてキャンディの5カ所。

巡った順番よりも、都市の栄えた年代順に紹介していく事にする。まずは、世界文化遺産の中で、スリランカの一番北に位置するのが、「聖地アヌダーラプラ」。1982年に世界遺産に登録されたこの地は、今から2500年以上も前に築かれた、スリランカ最古の都市。紀元前3世紀に仏教がインドより伝わり、仏教都市として栄えた。

この聖地から、時代を経て、スリランカの中心都市は、徐々に南下していく。世界遺産を巡ることで、インドからこの地を征服しようと侵攻してきた勢力に押されて、遷都を余儀なくされ続けた、スリランカの歴史を学ぶことができる。点でしか考えられなかった一つ一つの都市遺跡の存在が線として繋がってくるのが興味深い。



01

01/ ダンブッラの石窟で祈りを捧げる父娘

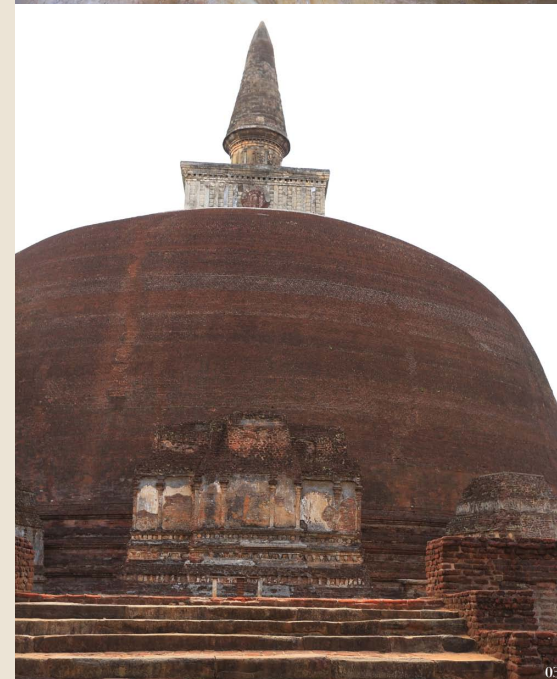
02/ シーギアロックの岩壁に描かれた世界中の美女のフレスコ画

03/ ポロンナルワにある大塔、キリ・ヴィハーラ

04/ ポロンナルワの遺跡群の中で最大の円形仏塔、ワタダーゲ



02



03



04

Sri Lanka

スリランカ ホエールウオッチング
北東部海岸トリンコマリと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

関連情報HPへ

03

10世紀末、タミル人の侵攻によって、
アヌダーブラから追われたシンハラ王朝
が2番目の都としたのが、ポロンナルワ。
12世紀には南アジアで最も栄えた仏教
都市であったと言われている。

そして、シンハラ王朝最後の都が、16
世紀に作られたキャンディの都。1815年イ
ギリス領になるまでの300
年間首都として栄え、今
なお仏教徒の信仰を集め
る美しい町でもある。

しかし、そんな仏教遺
跡の中でも、一際異彩を
放つのが、天空の古代
都市シーギリアだ。ジャングルの中にこつ
然とそびえ立つ高さ195mの巨岩シーギ
リア・ロック。こんな場所に王宮を建て、下
界に降りることを恐れた王の、狂気なまで
の懐疑心が作り出した悲しき創造物。頂
上まで登るのは、一苦労だけど、一見の
価値は多いにある遺跡だと思う。



- 01/ 仏像にお供えする蓮の花が並ぶ
- 02/ 古都には、オレンジ色の袈裟を来た僧侶の姿が目立つ
- 03/ 古都キャンディの象徴。仏歯時
- 04/ 仏歯寺の本堂は、参拝者の花で満たされていた



ダンブッラの石窟寺院の外観



02



キャンディの仏歯寺への入り口



03



04

カル・ヴィハラの涅槃像、立像、座像の3体の中の座像



S r i L a n k a

スリランカ ホエールウオッチング
北東部海岸トリンコモリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

関連情報HPへ



ピジョン
アイランドで
ダイビング

Diving

S r i L a n k a

スリランカ ホエールウォッチング
北東部海岸トリンコモリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

◀ 関連情報HPへ



ビジョンアイランドの周囲は、浅くて岩がちな地形が多い



01/シビレイの仲間を発見
02/まだ設備は充実していない
03/サンゴエリアでは、ウミガメも良く目にした
04/ビジョンアイランドにも上陸できる
05/サザナミヤッコの幼魚
06/コウイカにも遭遇



02



03



04



サンゴの上には、スカンテンジクダイが群れる

ピジョンアイランドでダイビング

世界文化遺産群は、スリランカ内陸部にある。この遺跡群を抜けて、たどり着いた北東部トリンコムリーで潜ったポイントは、ビジョンアイランド周辺。トリンコムリーの町より、北にあるニラヴェリ沖にある小さな無人島で、周囲にはいくつかの岩礁が点在している。

1963年に国立海洋公園に指定され、100種以上のサンゴ、300種以上の魚類が生息しているとされており、生物の多様性が高く評価されているのだそう。

ビーチの目の前には、浅いサンゴのリーフが広がり、スノーケルで楽しめる。ブラックチップシャークが6～7匹、集団で姿を見せたこともあった。



05

ダイビングポイントはどれも岩がちで、水深は20mも無い。この時期、外洋の深海から、「黒い水」が押し寄せる時期があると言われていて、その期間は1ヶ月程続くのだそう。

丁度そのタイミングで取材に訪れてしまったため、透明度に関しては、期待外れ。

しかし、確かに、魚影の濃さは伺えた。できれば、透明度の上がると言われている4月頃に、またこの海に戻ってきたいと思っている。



06

S r i L a n k a

スリランカ ホエールウォッチング
北東部海岸トリンコムリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>



関連情報HPへ

ボートの先端に立ち、
クジラのプローを探す



シーズン外れだったが、
運良くマッコウク
ジラに遭遇

スリランカに興味を抱いたのは、数年前の事。モルジブへ取材にでかけた時の機内誌に、スリランカ南部でシロナガスクジラに会えるという内容の記事が掲載されていたのを見つけてからだ。

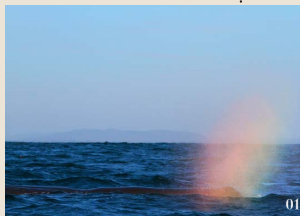
大物海洋哺乳類や魚類の撮影をライフワークにしている自分にとって、「そんな暖かい海でシロナガスクジラに会えるなんて!」と衝撃を受けた。シロナガスクジラは、水温の低い海域でしか見られないものと思っていたからだ。

それからと言うもの、スリランカ南部でのクジラの情報を集めることに尽力したが、なかなか思うような情報は得られないまま、数年が過ぎた。

そんなとき、このスリランカ取材の話が舞い込んだ。しかし、取材先は、南部ではなくて、内戦が終結して新たに観光客に門戸を解放した北東部海岸の町、トリンコマリ。

一も二も無く、この取材を引き受けたのだけど、自分が行きたい場所とは、ほぼ正反対の場所。おまけに短期間でアクセスしたくても道が悪い。とにかく取材後、滞在を延長して数日間南部に行くことも考えていた。しかし、多忙なスケジュールが邪魔をして、日程の延期は諦めた。

ところが、機内でばらばらとめくっていた、「地球の歩き方」のトリンコマリーのページに、「ホエールウォッチングが人気」という一文を見つけた。どうやら、このトリンコマリーでも、マッコウクジラやシロナガスクジラとの遭遇が可能らしい。



01

マッコウクジラ リサーチへ

01/ ブローに虹がかかる

02/ マッコウクジラの
背びれ

03/ 日の出前から漁
が始まる

04/ ドティバックの一種

05/ 漁師にクジラの
目撃情報を聞く



02



03



04



05

S r i L a n k a

スリランカ ホエールウォッチング
北東部海岸トリンコマリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

関連情報HPへ

07



スリランカ北部にも、5
スターのリゾートがい
くつかある

ホエールウォッチングは、まったく予定には無かったのだけど、見れるのであれば、是非見てみたい。宿泊先に到着するなり、ダイビングマネージャーのメナカに詰め寄って、ダイビングの事よりもまずクジラの情報を訪ねてみた。

しかし、「見られなくは無んだけど、今はシーズンじゃないよ」と一蹴された。しかし、彼が予想外にマッコウクジラやシロナガスクジラの知識と情報を持っていることを知る。

何故、南部のエリアと、このトリンコモリーがマッコウクジラとの遭遇に適しているのか。彼の話を聞くと、なるほどそういう事か、と合点がいった。「ダメもとでいいから、リサーチしてみよう」ということになり、ある日の早朝、外洋にボートを走らせた。

周囲には、漁師の船が行き交っている。その漁師たちに声をかけて、何やらタミル語でやり取りしている。そして、漁師が指差した方向へと小さなボートを走らせる。「どうなの？」と訪ねると、「彼らは向うで群れを見たと言っている」とのこと。「え。それは今日？」「そう、さっきのことだ。この時期に見られるなんて運がいいよ」とメナカ自身も嬉しそうにしている。

その方向に向かうと、すぐに「ブローだ!!」とメナカが叫び、力強く指を指した。その先には、1個ではなく、何個かのブローが確認できた。

「ラッキーだ! マッコウクジラ、結構いるぞ!」そうメナカが叫び、ボートは全速力でブローへと接近。途中からスピードを緩め、徐々に距離を詰めていく。「入れるの?」そ



う訪ねると、「いや、この透明度じゃ、無理だよ。今日は上からだけだ」とメナカが僕をたしなめるように、笑った。

確かに、今日の透明度は、外洋でありながら、最悪だ。メナカの話によると、この時期、外洋の深海から、「黒い色をした海水」が上がってくるのだそう。それは一ヶ月程続き、また透明度の高い海を取

り戻すという。この「黒い海水」が、深海から表層に、プランクトンを多く含んだ栄養素の高い海水をもたらし、豊かな漁場を漁師たちに与えているのだという。

「ボッド（群れ）がいくつかあって、ブローが、1kmくらい離れて前と後ろで見える。多分このエリアに100頭はいるよ」そうメナカがつぶやいた。「そんなに?」自分は耳を疑った。

その時、目の前のマッコウクジラが、潜行のためにテールを大きく上げた。その瞬間を激写した。

見れないと思っていたマッコウクジラをこんなに見ただけでも満足だったのに、その直後、「あ、あれはシロナガスだ!」と指差すメナカ。確かに、背中の色が、マッコウのように黒くはなくて、明るいグレーをしている。

慎重に接近を試みたのだが、もう少しといところで、漁師のボートが突っ込んで行き、潜行してそのまま姿を消してしまった。

撮影はまともにできなかったが、マッコウだけでなく、シロナガスクジラまで、この海域で見ることができると確認できただけでも収穫は大きかった。

2013年4月

スリランカのダイビングツアーは、 エスティワールドへ!!

壮大な仏教遺跡を数多く残し、今もなお後世にその風格を伝える歴史ある島、スリランカ。中でも東海岸の「トリンコモリー」では、その歴史を感じさせる街並みや、沿岸一帯に広がるビーチを有し、ダイビングなどのアクティビティも盛ん。特にマッコウクジラや世界最大と言われるシロナガスクジラがいる可能性を秘めるホエールウォッチングは、訪れた者に期待を抱かせる。スリランカのダイビングツアーは、エスティワールドへお問い合わせください。➡<http://stworld.jp>



今回の取材に協力してくれたのは、ヒッカドゥアとトリンコモリーに拠点を持つボセイドンダイビングステーション。4月は、トリンコモリーエリアのダイビングが丁度シーズンになる時期に当たる。

S r i L a n k a

スリランカ ホエールウォッチング
北東部海岸トリンコモリーと、世界文化遺産を巡る旅



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://stworld.jp/>

関連情報HPへ